

大正3年に父とともに生家に作った茶室を、昭和44年当地に移築した。その際に作った露地である。重森は露地までも枯山水で作ってしまったが、公共の施設として寄贈した茶室と露地であるので手入れが簡単なようにとの配慮でもある。

この天籟庵露地は、全庭をモルタル洗出しとしている。このようなデザインの庭は今後しばらく出現しないであろう。

移築場所が吉川八幡境内で、その八幡神が海神であることに因み、海波と土坡の地模様を、思い切って抽象的に扱っている。茶室は重森が18歳の時の設計であるが床が三つもあり、天井にも工夫がある。



公共の露地として植栽を排除した



右より真・行・草の床



八幡宮の海神に因んだ海波（白）と土坡の地模様

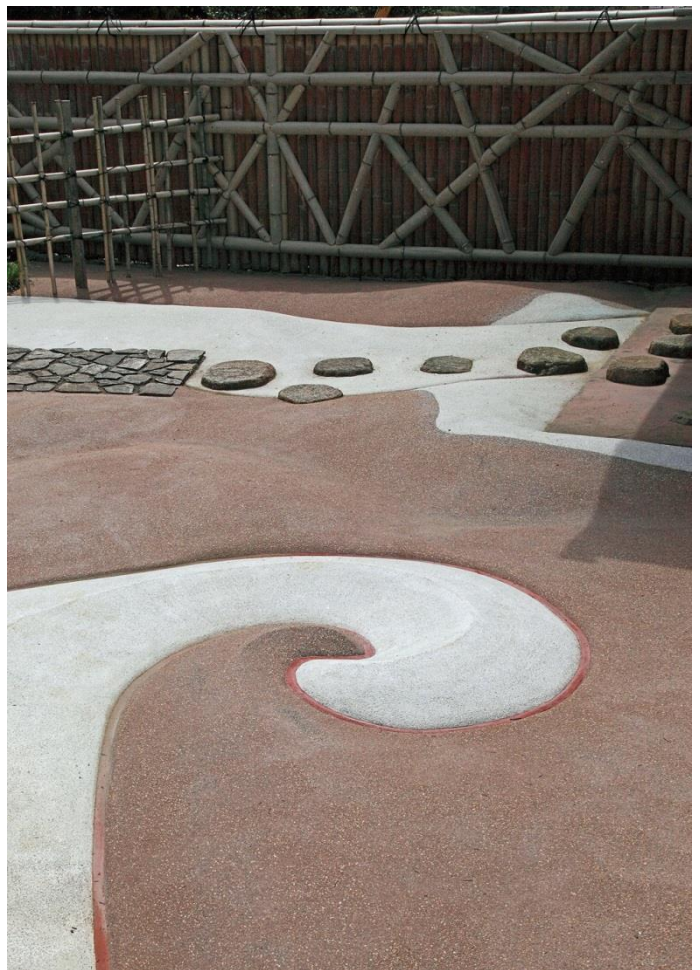




外腰掛け(画面右上)と露地



天籟庵への道



デザインされた露地と竹垣